

事業名 こども会議

〈拠点〉中川児童館

対 象 小学生～高校生

事業内容

子どもたちが、児童館事業や運営にかかわるしくみです。困ったことがあればスタッフが聞いてくれる、力を貸してくれるという安心感のなかで、自らの力を発揮しやり遂げる達成感から自己肯定感や主体性を育みます。子ども自らが意見を発信し、地域の拠点運営にかかわることで、気づきや課題を自分事として捉え解決していく力を発揮していきます。他者とのつながりの中で、役割を見出し人の役にたいたい・社会につながりたいという意欲が生まれ、社会参画につながるきっかけとなります。

事業のポイント

- ・子どもたち自身の居場所である児童館の運営にかかわることが、地域とつながるきっかけとなる。
- ・自分たちが参画して決めたルールだからこそ、責任を持って守る意思が生まれる。

こんな力を身につけてほしい：担当者の願い

- ・自分の考えや意思を伝える力
- ・相手の立場にたってものごとを考える力
- ・計画や目標を立て、目標達成までのプロセスを管理する力
- ・社会の一員として、社会に関わる力

エピソード

「子どもの居場所のルールは子ども達自身で決める」

中川児童館では、トレーディングカードで遊ぶ子が沢山来ます。そこで問題になったのが、「カードの忘れ物」です。カードの中には、高価な値のつくプレミアムなカードもあつたりして、職員は、日々日々たまっていくカードの忘れ物にこまっていました。

そこで、子ども会議で議題として話し合いが行われました。(職員)「カードの忘れ物が多くてこまっているのだけど・・・」(こども)「きっと、忘れていくってことはいらぬカードなんじゃない?」「忘れた自分がわるくない?」「忘れていったカードはすぐに捨てちゃえばいいじゃん」など様々意見がでました。「自分は、カードを忘れたら、まあいいか〜てなることもあるかも」「困ったら、職員に聞くよ!」と、自分ならどうするか意見も出てきました。「忘れ物のカードを自由にもって行っていいみたいにするのはどう?」という意見に対しては(こども)「いいカードがもっていかれちゃう!」「それって、絶対トラブルになるって!」と議論が白熱。それらの話し合いをつうじて、事務所での保管期間を決めようという話になりました。いくつか候補をあげて、多数決を実施。中川児童館では『忘れたカードの保管期間は 2 週間』と決定しました。

子どもたち自身の居場所である児童館のルールは、子ども達自身で決める。それらの経験を通じて、自分が生活する場に対する関心が増し、場を作っていくのは自分たちだという思いを持っていきます。児童館という小さな社会の中で、その仕組みに関わっていく力を少しずつつけて、いずれは社会の中の仕組みにも関わっていく人が育っていったらと願っています。